

**令和8年度
教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価に関する報告書**
(令和7年度事業)

令和8年9月

向日市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1	趣旨	1
2	点検・評価の対象及び方法	1
II	教育委員会の活動状況（令和7年度）	2
1	教育委員会構成員	2
2	教育委員会の開催状況 14回	3
3	教育委員会委員の主な活動（教育長のみが出席したものを除く）	7
III	事業評価シート（令和7年度事業）	8
1	豊かな学びの創造と確かな学力の育成	9
2	豊かな人間性の育成と多様性の尊重	14
3	健やかな身体の育成	19
4	学びを支える安心・安全な教育環境の充実	22
5	学校・家庭・地域の連携・協働による学校の教育力の向上	25
6	生涯学習環境の充実	27
7	家庭・地域社会の教育力の向上	39
8	安心して産み育てる体制づくり	42
9	スポーツ活動の推進	45
10	互いの人権を認め合うまちづくり	47
11	歴史・文化資源の整備と活用	49
IV	外部評価委員の総評	54

I はじめに

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされております。

また、点検及び評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされております。

このため、本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様への説明責任を果たすため、事務事業の実績について取りまとめ、成果や課題について検証しました。

検証にあたっては、学識経験者である市教育委員会外部評価委員の方のご協力を得て、様々な意見・助言等をいただきましたので、その結果を報告します。

2 点検・評価の対象及び方法

教育基本法第 17 条第 2 項に基づく、本市における「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」と位置づけている「第 3 次ふるさと向日市創生計画」で定める重点施策や取組事業を踏まえ、主要な 11 施策 42 事業を外部評価対象事業とし、委員の方から施策ごとに様々な意見・助言等をいただきました。

(1) 点検・評価委員

氏 名	役職等
前坂 あや子	元高知県教育委員会事務局就職アドバイザー
松宮 功	元大阪国際大学短期大学部教授

(2) 点検・評価会議開催状況

第 1 回点検・評価会議（令和 8 年 7 月 29 日開催）

第 2 回点検・評価会議（令和 8 年 7 月 30 日開催）

第 3 回点検・評価会議（令和 8 年 8 月 25 日開催）

Ⅱ 教育委員会の活動状況（令和７年度）

１ 教育委員会構成員

役 職	氏 名	就 任 日	任 期 満 了 日
教育長	山本 真也	令和５年７月１日	令和９年６月３０日
教育長 職務代理者	松本 克彦	平成２０年１０月１日	令和１０年９月３０日
委 員	流石 智子	平成２７年１０月１日	令和９年９月３０日
委 員	中野 緑	平成３０年１０月１日	令和８年９月３０日
委 員	畠山 亮	令和３年１２月１０日	令和１１年１２月９日

（１）教育長の異動

なし

（２）委員の異動

令和７年１２月９日付けで畠山委員が任期満了となり、１２月１０日付けで再任された。

2 教育委員会の開催状況 14 回

回	開催日	開始時刻	付議案件等
令和 7 年 第 5 回	4 月 30 日(水)	午後3時00分～	【報告事項】 ・ 令和 7 年度小中学校の研究指定及び指導体制の充実に係る配置について ・ 教育支援センター「ひまわり広場」の移転について ・ 社会教育委員の臨時代理について
第 6 回	5 月 12 日(月)	午前10時15分～	【議案第 11 号】 向日市議会令和 7 年第 2 回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について ・ 令和 7 年度向日市一般会計補正予算について 【報告事項】 ・ 学校訪問について
第 7 回	6 月 30 日(月)	午後3時00分～	【報告事項】 ・ 向日市議会令和 7 年第 2 回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・ 令和 6 年度いじめ調査の概要について ・ 向日市立小中学校体育館空調の運用について ・ 向日市立学校施設開放について ・ 令和 7 年度留守家庭児童会夏季入会児童数について ・ 年間入館者数について（図書館・天文館・文化資料館・文教課） ・ 令和 7 年度物集女車塚古墳石室一般公開について
第 8 回	8 月 19 日(火)	午後1時30分～	【議案第 12 号】 令和 8 年度に使用する学校教育法附則第 9 条に規定される教科用図書の採択について 【議案第 13 号】 向日市議会令和 7 年第 3 回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について ・ 令和 6 年度向日市一般会計決算について 【報告事項】 ・ 向日市立小中学校の修学旅行等宿泊を伴う学校行事の実施状況について ・ 小学校給食で使用する食器具について ・ 令和 7 年度中学校総合体育大会結果について ・ 埋蔵文化財発掘調査現地説明会の開催について

回	開催日	開始時刻	付議案件等
第 9 回	9月22日(月)	午前10時00分～	【議案第 14 号】 人事に関することについて 【議案第 15 号】 向日市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令について 【議案第 16 号】 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について 【報告事項】 ・向日市議会令和 7 年第 3 回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・令和 7 年度第 1 回いじめ調査の概要について ・大阪・関西万博体験学習の実施状況について ・「ふるさと発見土器どき DAY」の開催について ・朝堂院公園を活用したイベントの開催について
第 10 回	10月28日(火)	午前10時00分～	【議案第 17 号】 向日市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の服務に関する規程の一部を改正する訓令について 【報告事項】 ・（仮称）新寺戸公民館について ・向日町競輪場再整備に伴う発掘調査に係る現地説明会の開催について
第 11 回	11月11日(火)	午後3時30分～	【議案第 18 号】 向日市議会令和 7 年第 4 回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について ・令和 7 年度向日市一般会計補正予算について ・向日市民体育館の指定管理者の指定について
第 12 回	12月17日(水)	午前9時30分～	【議案第 19 号】 人事に関することについて

回	開催日	開始時刻	付議案件等
第 13 回	12月23日(火)	午前10時00分～	【報告事項】 ・向日市議会令和7年第4回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・令和8年度向日市の教育（指導の重点）の改訂について ・令和8年度通学区域の弾力化制度実施結果について ・第22回向日市中学生英語スピーチ大会結果について ・令和8年向日市はたちの集いについて ・埋蔵文化財発掘調査現地説明会の開催について ・第24回小中学生読書感想文コンクールについて ・令和7年度人権擁護啓発ポスターコンクールについて
令和8年 第1回	1月27日(火)	午前10時00分～	【報告事項】 ・令和8年度向日市の教育（指導の重点）の改訂について ・令和8年向日市はたちの集いについて
第2回	2月13日(金)	午後1時30分～	【議案第1号】 向日市議会令和8年第1回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について ・令和7年度向日市一般会計補正予算について ・令和8年度向日市一般会計予算について ・向日市民温水プール条例の廃止について ・（仮称）寺戸公民館新築工事請負契約の締結について 【報告事項】 ・令和8年度向日市の教育（指導の重点）の改訂について ・令和7年度第2回いじめ調査の概要について ・令和7年度新体力テスト結果について
第3回	2月25日(水)	午前10時00分～	【議案第2号】 人事に関することについて
第4回	3月23日(月)	午前10時00分～	【議案第3号】 人事に関することについて

回	開催日	開始時刻	付議案件等
第 5 回	3 月 26 日(木)	午後3時30分～	【議案第 4 号】 向日市スポーツ推進委員の委嘱について 【議案第 5 号】 向日市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について 【議案第 6 号】 令和 8 年度向日市の教育について 【報告事項】 ・向日市議会令和 8 年第 1 回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・国登録有形文化財向日庵（旧寿岳家住宅）買上事業について ・埋蔵文化財発掘調査現地説明会の開催について

3 教育委員会委員の主な活動（教育長のみが出席したものを除く）

（1）教育委員会関係行事への参加

- 小中学校入学式・卒業式
- 小中学校訪問
- 小中学校体育大会
- 小中学校公開授業、研究発表会
- 中学生英語スピーチ大会
- 向日市はたちの集い（成人式）
- 洛南高等学校附属小学校入学式、卒業式
- 京都西山高等学校入学式、卒業式
- 向日が丘支援学校入学式
- 第5 向陽小学校創立五十周年記念式典 ほか

（2）研修・協議会等

- 乙訓教育委員会連合会教育委員研修会
- 乙訓教育委員会連合会定期総会
- 京都府市町村教育委員会連合会定期総会・研修会
- 京都府内市町（組合）教育委員会研修会
- 近畿市町村教育委員会研修大会（オンライン）
- 市町村教育委員会研究協議会

Ⅲ 事業評価シート（令和７年度事業）

施策番号	1
施策名	豊かな学びの創造と確かな学力の育成

施策の基本方向 ○児童生徒が学ぶことの意義や楽しさを感じられる多様な学びの実現に努めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、確かな学力をはぐくむ教育を推進する。

事業名	研究指定
事業概要 実績	各学校は、京都府教育委員会や京都府乙訓教育局、本市教育委員会の研究指定を受け、児童生徒の実情に応じて実践的に授業改善や学習環境の整備等を行い、学力向上に取り組んだ。 ○文部科学省指定 「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」 (児童生徒へのデジタル教科書の配布) 【算数・英語】向陽小学校、第2向陽小学校、第3向陽小学校 【英語のみ】第4向陽小学校、第5向陽小学校、第6向陽小学校 【数学・英語】西ノ岡中学校 【英語のみ】勝山中学校、寺戸中学校 ○京都府教育委員会指定「不登校児童生徒支援システム構築事業」(3/3)※ ※指定期間3年中3年目を示す。以下同じ。 ・勝山中学校ブロック(勝山中学校・向陽小学校・第5向陽小学校) ○京都府教育委員会指定「京都府学力・学習状況調査 ～学びのパスポート～」 活用推進事業(3/3) ・実践研究指定校：西ノ岡中学校ブロック (西ノ岡中学校・第2向陽小学校・第6向陽小学校) ○向日市教育委員会指定 ①向陽小学校 「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり」 ～Grow the Cast 未来の主役を育てる～ 公開授業2月10日 ②第2向陽小学校 「子どもたちの問いを大切にした算数授業の追究」 ～子どもの見取りを生かして、より深い学びへ～ 公開授業11月18日 ③第3向陽小学校 「自ら考え、仲間と共に、学び続ける力の育成」 ～聴き合い、伝え合うつながりの中で～ 公開授業2月6日 ④第4向陽小学校 「ここをつなぐ 学びをつなげる」 ～みんなでわくわく「考えよう・やってみよう」～ 公開授業11月7日

	⑤第5 向陽小学校 「『楽しい』『学び続ける』社会科の創造」 ～地域発「めざせ探究人」プロジェクト～ 公開授業 11 月 11 日 ⑥第6 向陽小学校 「人とのつながりを通して主体的な学び、新たな価値を作り出すことのできる子どもの育成」 公開授業 1 月 30 日 ⑦勝山中学校 「『主体的・対話的で深い学び』の実現」 公開授業 1 月 23 日 ⑧西ノ岡中学校 「生涯にわたり学び続ける生徒の育成～他者と協働して課題解決の挑む～」 公開授業 1 月 15 日 ⑨寺戸中学校 「仲間とのつながりを大切にし、協力し合いながら目標に向かって取り組むことができる生徒集団の育成」 公開授業 1 月 28 日 ○ICTを活用した授業の研究 ①GIGAスクールプロジェクトチーム（PT） 「GIGAスクール構想」に基づき、整備された児童生徒1人1台タブレット端末の利活用促進に向けて、GIGAスクールプロジェクトチーム（PT）会議を開催し、タブレット端末を使った効果的な実践について交流・協議を行った。 ・第1回（5月13日）：令和6年度活動報告「GIGAスクール構想第Ⅱ期に向けて」 令和7年度活動計画 ・第2回（7月10日）：ICTを活用した授業の見学（第5 向陽小学校） 授業における効果的なタブレット活用について ・第3回（11月13日）：ICTを活用した授業の見学（寺戸中学校） 授業における効果的なタブレット活用について ロイロノートの新機能（研修） ・第4回（1月27日）：ICTを活用した授業の見学（第2 向陽小学校） 授業における効果的なタブレット活用について 令和7年度ICT活用アンケート調査の結果について ②ICTを効果的に授業で活用している教員の授業を参観し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」における効果的な活用方法について研修を行った。 ③新しく導入した学習支援システム「ロイロノート スクール」について、運営会社より講師を招聘し、新機能など効果的な利活用方法について研修を行った。 ④教員及び児童生徒（小4、小6、中3）を対象にアンケート調査を実施し、教員のICT活用指導力及び児童生徒の情報活用能力について、各学校の状況等を把握し、より効果的な研修の在り方や体系的な情報活用能力の育成に向けた指導の在り方などについて協議を行った。
	担当課 学校教育課

事業名	学力テストの実施
事業概要 実績	各種学力テストを実施し、各学校は児童生徒の学習の定着状況を把握するとともに結果を分析し、授業改善につなげた。 ○（京都府）京都府学力・学習状況調査「学びのパスポート」（小学4年生～中学3年生） ○（文科省）全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生）
担当課	学校教育課

事業名	子ども未来づくり支援事業（体験活動）										
事業概要 実績	○児童生徒の体験活動 各学校においては、それぞれの学校の実態や地域の特色を踏まえ、伝統や文化についての児童生徒の体験的な学習や、知的好奇心をはぐくむ学習などを実施した。 （目的別体験活動件数） <table border="0"> <tr> <td>①学力向上（習字、プログラミング、震災学習など）</td><td>8件（小学校8件、中学校0件）</td></tr> <tr> <td>②体験活動（着衣泳、剪画、農業など）</td><td>10件（小学校10件、中学校0件）</td></tr> <tr> <td>③伝統文化（琴、しめ縄、能楽鑑賞など）</td><td>11件（小学校9件、中学校2件）</td></tr> <tr> <td>④健康安全（防煙、いのちの学習など）</td><td>7件（小学校3件、中学校4件）</td></tr> <tr> <td>⑤キャリア（社会で働く人から学ぶ）</td><td>3件（小学校0件、中学校3件）</td></tr> </table>	①学力向上（習字、プログラミング、震災学習など）	8件（小学校8件、中学校0件）	②体験活動（着衣泳、剪画、農業など）	10件（小学校10件、中学校0件）	③伝統文化（琴、しめ縄、能楽鑑賞など）	11件（小学校9件、中学校2件）	④健康安全（防煙、いのちの学習など）	7件（小学校3件、中学校4件）	⑤キャリア（社会で働く人から学ぶ）	3件（小学校0件、中学校3件）
①学力向上（習字、プログラミング、震災学習など）	8件（小学校8件、中学校0件）										
②体験活動（着衣泳、剪画、農業など）	10件（小学校10件、中学校0件）										
③伝統文化（琴、しめ縄、能楽鑑賞など）	11件（小学校9件、中学校2件）										
④健康安全（防煙、いのちの学習など）	7件（小学校3件、中学校4件）										
⑤キャリア（社会で働く人から学ぶ）	3件（小学校0件、中学校3件）										
担当課	学校教育課										

事業名	ふるさと学習
事業概要 実績	各学校では、教育課程での位置づけを再確認し、校外での体験活動や地域の方々との交流を実施した。 ○小学校では、生活科や社会科と関連させ、総合的な学習の時間に実施した。 1年生・2年生：「向日市にふれる」町探検（校区の公園や図書館等の見学）を通じた学習 3年生・4年生：「向日市を知る」特産物（なす、たけのこ等）や校区内の特色（お寺・踊り・用水路等）についての学習、簡単な歴史についての学習 5年生・6年生：「向日市を学ぶ」歴史・文化や農作物等についての学習 ○中学校では総合的な学習の時間において実施した。 勝山中1年生：向日市の史跡や特産品について調べ学習を行い、発表会交流会を行った。 3年生：地域社会における住民自治について主体的に追究することを目的に、「空き家対策」や「アリーナ建設にともなう諸問題の解決」「公園やベンチの設置」「ふるさと向日市の強みを生かしたイベント」など中学生の目線にたった具体的な提案を直接市長に行った。 西ノ岡中2年生：未来の向日市について創造することを目的に、向日市の歴史や産業など様々な魅力について学習し、向日市の歴史、産業、暮らしなどを調べ、その魅力をパンフレットにまとめ発信した。 寺戸中2年生：「第9回向日市ふるさとWEB検定」に向けて向日市の歴史や地理等について学習を行い、過去問題を解く等知識を獲得した。 全中学校：「第9回向日市ふるさとWEB検定」受検 （勝山1年生、西ノ岡2年生、寺戸2年生）

	○ふるさと学習成果展 児童生徒が地域ならではの特色に関心を高め、ふるさとへの愛着をはぐくむとともに、授業で取り組んだ学習成果（新聞、プレゼンテーション資料・動画等）を校外に展示し、本市の特色ある教育活動を広く市民に知ってもらい、本市への関心を高める機会とした。 ・日 時：令和7年12月25日から令和8年1月13日まで ・場 所：向日市文化資料館 ラウンジ ・参加校：小学校（向陽、2向、3向、4向、5向、6向） 中学校（勝山、西ノ岡、寺戸）
担当課	学校教育課

施策の成果と課題	
【成果】 ○各学校では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に向け、児童生徒の実態に応じた研究テーマを設定し、より効果的な指導方法や指導体制を工夫するなど研究を進めた。 ○「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」において、デジタル教科書を使用することにより、音声、動画などの教材を使用することで、子どもの学習意欲の向上や学習内容の理解につなげることができた。 ○GIGAスクールプロジェクトチーム（PT）会議のメンバーを中心に、児童生徒がICTを活用する授業を参観し、「効果的なICT活用とは何か」について協議した。また、教員のICT活用指導力、児童生徒の情報活用能力、タブレット利活用状況等のアンケート調査を実施し、それぞれの実態を把握し、今後の研修や指導の在り方に関する協議や、効果的な実践事例等の情報交流を深めた。 ○全国学力・学習状況調査や京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～を実施し、それらの結果を踏まえ教員は把握した学力課題等について学力向上対策会議や各校内研修において共有し、授業改善につなげた。 ○ふるさと学習については、引き続き地域の「人」「もの」「こと」のつながりを大切にしたい取組を進めることができた。 ○ふるさと学習成果展では、今年度も各学校の歴史や地域に関わる学習の発信の場として取り組んだ。初めて全小中学校からの参加があった。市民からは「今の子どもたちの探究の深さに驚いた」「改めてふるさと向日市のよさを感じることができた。」などの声を聴くことができ、児童生徒のふるさと学習の成果について広く周知することができた。 【課題】 ○ICTの利活用については、教員間や学校間において差があるため、様々なアンケート結果や利活用状況等を踏まえて、GIGAスクールプロジェクトチーム会議を一層活性化させ、全ての指導者においてICTを活用した授業改善が図れるよう努めたい。 ○全国学力・学習状況調査や京都府学力・学習状況調査の結果は、各教科とも概ね国や京都府平均よりやや高い、または、平均であった。しかし、児童生徒質問における教科に関する関心については、京都府平均を下回ることが多かった。今後も児童生徒自身が「学ぶ意義」や「学ぶ楽しさ」を感じるにはどのような手立てが有効か追究していきたい。	

外部評価委員評価及び意見等

- 市立小中学校のそれぞれが大事にしたいテーマを研究指定し、授業改善に取り組み、子ども達の「主体的・対話的で深い学び」につなげていること、また、ICTについても毎年度、研鑽を重ねられ、子ども達が主体的に授業に参加し、グループワークや協働的な学びにつなげていることを評価する。今後も各学校が自ら選んだテーマを通じて、質の高い授業を実現されること期待する。
- 毎年、「全国学力・学習状況調査」や「学びのパスポート」の結果を通じて、各学校において学力向上対策会議や校内研修を実施し授業改善につなげていることを評価する。今後も不断の努力を怠らないよう努めていただきたい。
- 体験活動において、普段とは異なる外部の人に接することは、児童・生徒にとっては貴重な経験となる。今後も、各学校が地域のリソースを生かした学習活動が実施されるよう、教育委員会も支援に努めていただきたい。
- 向日市は近年、変化の大きいまちであり、歴史文化資源も豊富にある。向日市の過去や現在を学ぶ、ふるさと学習の過程で、子ども達の視点で向日市の将来をどうしていきたいのかを考える機会となっている。この学習を通じて、子ども達の調べる力や考える力、発表する力など、様々な学びにも結びついており大変意義のある内容として評価する。

施策番号	2
施策名	豊かな人間性の育成と多様性の尊重

施策の基本方向 ○一人一人の尊厳と人権が尊重され、個性の違いや多様性を認め合い、主体的に行動し、自らの能力を最大限に発揮することができる教育を推進する。 ○多様な考えや価値観に触れることを通じて、人を思いやり尊重する心を育てるとともに、自らの考えや思いを伝えながら感性や情緒、創造力や表現力をはぐくむ。 ○すべての児童生徒が安心して通うことができ、楽しく過ごすことができる学校づくりに取り組む。

事業名	「特別の教科 道徳」実践交流
事業概要 実績	参加者は公開された授業を参観し、事後研究会において授業改善の視点を明確にした協議を行った。 ○授業公開 第4 向陽小学校（6年1組）参加者数 12 人 ・ 内容項目：C 公正、公平、社会正義 ・ 教 材 名：「杉原千畝－大勢の人の命を守った外交官－」
担当課	学校教育課

事業名	人権教育
事業概要 実績	あらゆる人権問題に対し、豊かな人権感覚を持ち、幸せな社会生活を営めるよう、人権意識の高揚につながる取組を行った。 ○人権教育の授業数（各教科、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間） 小学校 18.6 時間（小1～小6における各学年の年間授業時間の平均） 中学校 18.4 時間（中1～中3における各学年の年間授業時間の平均） ○教職員研修 ①向日市教職員研修会（集合形式で実施）参加者数 79 人 ・ 日 時：令和7年8月18日（月） ・ 講 師：崇仁発信実行委員会代表 藤尾 まさよ 「差別の歴史と現状から見る同和問題」 ②各学校の校内研修会 同和問題（部落差別）、特別支援教育、性的指向・性自認、「多様な性」についての理解、子どもの貧困とヤングケアラー、SNSやインターネットによる犯罪や被害など、人権問題等をテーマとして実施 ○人権教育に関する参観授業 全小中学校で実施
担当課	学校教育課

事業名	特別支援教育の充実
事業概要 実績	○向日市教育支援委員会において、小中学校に在籍または就学予定の幼児、児童生徒について、障がいや特性等に配慮した適切な就学について協議し、相談及び指導を行った。 ・相談件数 144 件（就学前 54 件、小学校 64 件、中学校 26 件） ○各校の状況に応じ、特別支援教育支援員を配置し、教育上特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援を行った。 ・全小中学校に配置 小学校 27 人、中学校 7 人 ○特別支援教育就学奨励費を支給し、特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担軽減を図った。 給付内訳（給付対象人数：小学校 83 人、中学校 29 人） ・学用品等購入費（小学校 83 人、中学校 29 人） ・給食費（小学校 80 人、中学校 26 人） ・校外活動費（宿泊あり・宿泊なし）（小学校 21 人・77 人、中学校 0 人・17 人） ・修学旅行費（小学校 12 人、中学校 5 人） ・体育実技用具、柔道（中学校 2 人） ・新入学児童生徒学用品費等（小学校 4 人、中学校 12 人）
担当課	学校教育課

事業名	職場体験活動
事業概要 実績	中学 2 年生を対象に、望ましい職業観や勤労観等を身につけさせるため、地域社会における様々な職種の職場体験活動を実施できた。 ○コロナ禍の令和 2 年度から 4 年間実施できていなかったが、令和 6 年度から再スタートし、令和 7 年度は 109 の事業所に協力を得て、実施することができた。
担当課	学校教育課

事業名	安心・安全教育				
事業概要 実 績	○「向日市いじめ防止基本方針」に基づき、各小中学校においては「いじめ防止基本方針」を策定するとともに、校務分掌にいじめ防止委員会を位置付け、日常的にいじめの早期発見と早期対応に努めた。				
	○年 2 回のいじめ調査（アンケートと個別に聞き取り）を実施した。 （1 回目：7 月、2 回目：11 月）				
	※各調査後、3 か月後を目安に追跡調査を実施した。				
	いじめ調査の認知・解消件数（延べ件数）				
	年度	令和 6 年度		令和 7 年度	
	項 目	認知	解消	認知	解消
	小学校	1, 112	1, 025	1, 033	974
中学校	214	178	180	135	
合 計	1, 326	1, 203	1, 213	1, 109	

	○7月と2月に向日市いじめ防止対策推進委員会（臨床心理士や弁護士、小児科医等が委員）を開催し、いじめ調査結果を基にいじめの防止等に向けた方策について協議した。 ○不登校出現率《年間30日以上欠席》（ ）内は令和6年度 小学校 2.33%（2.04%） 中学校 7.52%（6.43%） ○交通安全教室の実施 ①小学校：「交通安全教室」 向陽小1・2年生、2向小1・2・3年生 「自転車安全教室」 2向小4年生、4向小1年生 ②中学校：「交通安全教室」西ノ岡中学校1年生 「自転車安全教室」寺戸中学校1年生
担当課	学校教育課

事業名	教育相談等
事業概要 実績	○教育支援センター「ひまわり広場」の充実 市内の不登校の児童生徒を対象に、主体性や社会性をはぐくみ、学校への復帰や社会的自立に向けた支援を行う「ひまわり広場」の活動を充実させた。 ・204日開設（週5日間 午前9時30分から正午まで） ・指導員15人（月曜日～金曜日 3人体制） ・登録児童生徒19人（小学校11人、中学校8人） ・通室児童生徒数 平均8.11人／日 ○教育相談事業の実施 来所による相談、電話による相談、学校への巡回教育相談を実施した。とりわけ来所相談はニーズが高く、1人の臨床心理士が週2回、児童生徒やその保護者等の教育相談に応じた。 （各相談件数） ・来所教育相談件数（市役所）延べ453件 ・電話教育相談件数 延べ136件 ・学校への巡回教育相談（全小中学校）延べ159件 ○心の相談サポーター事業 不登校の未然防止や早期解決を図るため、登校できるが教室には入りにくい不登校傾向の児童生徒を対象に、学習支援や教育相談等を行い、児童生徒の悩みや不安、ストレス等を解消するために、安全で安心な環境を提供し、精神的な安定を図った。 ・臨床心理学を学ぶ大学院生13人 ・配置校 小学校5校、中学校2校（各校週1日～4日） ・対応件数（延べ）1,975件
担当課	学校教育課

事業名	校種間連携の充実												
事業概要 実 績	○幼保小や小中連携として、幼児と児童、児童と生徒の交流及び教職員対象の研修を行った。 ①児童生徒 ・部活動体験：勝山中学校ブロック、西ノ岡中学校ブロック、寺戸中学校ブロック ・中学校体育大会見学：勝山中学校ブロック ②教職員 ・合同研修会（学力分析、生徒指導など） ・合同授業研究会（公開授業の参観、事後研究など） ※参加人数 <table><tr><td>勝山ブロック</td><td>（向陽小：126 人</td><td>5 向小：126 人</td><td>勝山中：130 人）</td></tr><tr><td>西ノ岡ブロック</td><td>（2 向小：64 人</td><td>6 向小：70 人</td><td>西ノ岡中学校：80 人）</td></tr><tr><td>寺戸ブロック</td><td>（3 向小：95 人</td><td>4 向小：90 人</td><td>寺戸中学校：100 人）</td></tr></table>	勝山ブロック	（向陽小：126 人	5 向小：126 人	勝山中：130 人）	西ノ岡ブロック	（2 向小：64 人	6 向小：70 人	西ノ岡中学校：80 人）	寺戸ブロック	（3 向小：95 人	4 向小：90 人	寺戸中学校：100 人）
	勝山ブロック	（向陽小：126 人	5 向小：126 人	勝山中：130 人）									
西ノ岡ブロック	（2 向小：64 人	6 向小：70 人	西ノ岡中学校：80 人）										
寺戸ブロック	（3 向小：95 人	4 向小：90 人	寺戸中学校：100 人）										
	○小学校教員と保育所（園）職員及び幼稚園教員との懇談、小学校児童と保育所（園）幼児との交流行事を実施した。 ①幼児と児童の交流行事 ・学校への幼児の招待と交流（1 年生による学校紹介や5 年生との遊び交流、昔遊びの紹介、学習体験やビデオレターによる学校紹介等） ②教職員（全小学校） ・保幼小連絡会 担当者による参観と懇談 ・合同研修会（京都府乙訓教育局主催事業） ・幼稚園、保育所（園）での授業参観・体験（初任者研修、10 年目研修対象）												
担当課	学校教育課												

施策の成果と課題
【成果】 ○小中学校道徳実践交流会では、小学校教員による特別の教科道徳の授業を各学校の教員が参観し、発達段階に応じた内容項目の在り方などの協議を通して、授業改善の視点を明確にすることができた。 ○中学2年生の職場体験活動では、3日間の活動を実施した。総合的な学習の時間を計画的に運用し、体験活動前には、主に働くことの意義や心構えについて学習し、体験活動後には、学んだことや考えたことを整理してまとめたり発表したりする中で、生徒に望ましい職業観や勤労観を育成することができた。 ○「ひまわり広場」における指導員の確保に向けて、臨床心理士及び公認心理師との連携を深め、優れた人材を確保することができた。また、複数の指導員を継続して確保することで、通所する児童生徒の個々の深い理解と安定したきめ細かい教育相談や必要な支援を実施することができた。 ○心の相談サポーター事業では、各サポーターが別室へ登校する児童生徒への個別の対応や、教室に入りにくい児童生徒が教室入室する場合の配慮すべき状況について教員と共有するなど、対象児童生徒の支援に貢献した。

○幼児児童生徒一人一人に応じた継続した教育的支援の充実を目指して、健康推進課や幼稚園・保育所（園）・認定こども園・療育機関等と協力して進めてきた「移行支援シート」の活用については、小学校での活用が定着するとともに、小学校から中学校への引き継ぎもスムーズに行われ、中学校での活用も進んでいる。

【課題】

- いじめの認知件数について、本市においては学年が上がるにつれ減少する傾向も見られる。認知数の多さについては、学校が児童や生徒の思いを丁寧に把握し、普段からいじめを積極的に認知し、早期対応を図っている結果であるが、それだけ多くの児童生徒が嫌な思いをしている結果でもある。日常から教員が児童生徒の些細な変化を見落とすことなく、一層教員と児童生徒との信頼関係を構築し、いじめの初期段階で丁寧に寄り添うなどの対応が必要である。
- 各学校において、不登校に係る児童生徒一人一人に対して適切にアプローチしていくために、事例を見立てる専門家や関係機関を積極的に活用し、チームとして組織的に対応していく必要がある。
- すべての児童生徒の教育機会を確保するため、登校という形にこだわらず、本市教育支援センター「ひまわり広場」の活用や民間フリースクール等との連携を図り、児童生徒の社会的自立に向けた支援を充実する必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

- 道徳は「特別の教科」とあるよう大切な教科だが非常に教えるのが難しい教科であることがうかがえる。その教科について、毎年度、小中学校道徳実践交流会を通じて校内外の教員間で授業改善に取り組んでいることを評価する。今後も継続していただきたい。
- 人権教育では、各学校の校内研修会において「多様な性」についての理解や子どもの貧困とヤングケアラー、SNSやインターネットなどの今日的な内容について実施されていることを評価する。今後も研鑽を重ねていただきたい。
- 特別支援教育支援員のフォローは、当該児童・生徒のみならず、関わりのある人々にとっても良いことである。特別支援学級（あるいは、特別な支援が必要な児童生徒）が増える中、特別支援教育支援員の配置数が昨年度よりも増員されていることを評価する。
- 職場体験活動は子ども達が社会に触れる貴重な機会であり、教育現場からも教育効果の高い学習活動との声が大きいと聞く。開催時期の問題もあるが継続していただきたい。また、生徒を受け入れる事業所を確保するために、学校等の関係者が非常に努力されていることを評価する。
- 校種間連携では「移行支援シート」の活用が定着し、小学校から中学校への引き継ぎもスムーズに行われるようになったことは評価できる。保育所から小学校、小学校から中学校へ校種が変わる時期は、発達段階の観点からも心の変化が大きい。今後も、関係機関が連携し「移行支援シート」等も活用しながら支援に努めていただきたい。

施策番号	3
施策名	健やかな身体の育成

施策の基本方向

○「スポーツどころ」をはぐくむ教育の推進を図る。

○学校・家庭・地域が一体となって健康的な生活習慣を確立する教育を推進する。

事業名	体力テストの実施								
事業概要 実 績	○各学校において、新体力テストを実施した。								
	<結果> 令和7年度実施「新体力テスト」(平均値)								
	①小学5年(男子)：8種目中、5種目において全国平均を下回る。								
		握力 (kg)	上体起こし(回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
	向日市	14.84	19.34	33.49	38.75	48.44	9.42	151.18	20.36
	全 国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06
	京都府	15.26	19.46	31.23	38.95	48.99	9.33	150.23	21.189
	②小学5年(女子)：全種目で全国平均を下回る。								
		握力 (kg)	上体起こし(回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
	向日市	14.34	17.15	37.12	36.75	33.45	9.85	139.48	12.10
	全 国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11
	京都府	15.06	18.22	35.28	36.86	36.77	9.73	141.48	12.91
	③中学2年(男子)：8種目中、4種目において全国平均を上回る。								
		握力 (kg)	上体起こし(回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
	向日市	25.81	27.23	45.31	53.35	78.38	7.98	197.36	18.79
	全 国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	7.99	197.51	20.74
	京都府	28.23	25.89	43.10	51.94	82.74	7.93	196.47	19.80
	④中学2年(女子)：8種目中、5種目において全国平均を下回る。								
		握力 (kg)	上体起こし(回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
	向日市	21.72	21.85	46.27	46.12	50.09	9.08	168.38	12.58
	全 国	23.15	21.69	46.99	45.74	50.60	8.97	166.43	12.43
	京都府	22.71	21.63	44.59	46.00	52.20	8.92	165.07	12.27
担当課	学校教育課								

事業名	健康に関する授業
事業概要 実績	薬物乱用防止教室について、すべての小中学校で薬物乱用防止教室を実施した。 向陽小6年生（3月）、2向小4・5・6年生（6月）、3向小6年生（7月）、 4向小6年生（7月）、5向小6年生（7月）、6向小5年生（7月）、 勝山中2・3年生（9月）、西ノ岡中1・3年生（7月）2年生（3月）、 寺戸中3年生（7月）
担当課	学校教育課

事業名	食育・学校給食運営
事業概要 実績	○小学校では、食に関する体験活動（農作物栽培）や給食を通じて食育の推進を図った。 ・農作物例 1・2年生（さつまいも、枝豆、オクラ、ミニトマト、ピーマン） 3・4年生（大根、オクラ、キャベツ、なす、ゴーヤ） 5・6年生（かぼちゃ、きゅうり、じゃがいも、米等） 特別支援学級（大根、ねぎ、にんじん、じゃがいも、えんどう豆等） ・給食等の活用例（さつまいも、米、大根、玉ねぎ、ピーマン、ゴーヤ） ○小学校給食実施児童数 3,089 人（令和7年5月1日現在） ・米飯給食週4回実施。 ・給食備品の修繕及び更新により、給食室衛生管理の徹底を図った。 ・給食室害虫駆除、栄養教諭等保菌検査、食材検査、専門家による研修等を実施し、衛生管理の徹底を図った。 ○中学校給食実施生徒数 1,357 人（令和7年5月1日現在） ・米飯給食週5回実施。 ○栄養士等給食関係者従事者の保菌検査、専門家による研修等を実施し、衛生管理の徹底を図った。 ○食物アレルギーを有する児童生徒へ医学的根拠に基づいた適切な対応ができた。 食物アレルギー ・小学校：279 人（有症率 9.0% 除去食対応 79 人） ・中学校：171 人（有症率 12.6% 除去食対応 37 人） ○中学校給食献立コンクール 献立コンクールを通じて、栄養のバランスや、地元野菜など給食への興味関心を持たせ、給食を通じて食育の推進を図った。 ・全中学校応募者合計数：720 人 - 入賞献立：教育長賞 1 人 優 秀 賞 5 人 (入賞献立は、12 月 1 日～15 日の間で実際に献立を実施)
担当課	学校教育課

施策の成果と課題

【成果】

- 小学校では、日々の給食指導や給食週間の取組、給食委員会の活動等を通して、食に対する正しい知識や食事のマナーの向上が図れた。
- すべての小中学校において、生活科や理科、委員会活動、生活単元活動を通して、農作物を栽培している。そのうち、小学校では収穫したものを給食等で活用し、栽培活動と食育と関連させた学習を進めることができた。

【課題】

- 体力テストの結果、多くの種目で全国平均を下回っていることを踏まえ、児童生徒の体力向上に向けて、体育や保健体育の授業中にサーキットトレーニングや筋力トレーニング等を行うだけでなく、休み時間の外遊び、部活動等を通じて様々な運動を経験させ、一層の体力の向上を図る必要がある。
- 中学校において、給食を活用した食育を通じて、望ましい生活習慣を身に付けるよう指導を行っていく必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

- 体力テストの最終的な目標は、健やかな身体の成長や健康的な生活習慣を身につけさせることである。結果が平均値を大きく下回っていない限りは、子ども達が運動やスポーツを行う機会を着実に確保することが大切だと考える。
- 薬物乱用防止教室については、小学校では薬を正しく飲むということを中心とした内容を実施されている。発達段階に応じた内容を全小中学校で実施されていることを評価する。継続して実施していただきたい。
- 小学校では農作物栽培の体験活動やそこで収穫した作物を給食に使用することで、食への関心や学びを高めており、学校給食と食育がしっかりと結びつけられ連動していることを評価する。また、中学校では給食献立コンクールの応募者数が昨年度より大きく増えており、給食を活用した食育の推進が進捗していることを評価する。

施策番号	4
施策名	学びを支える安心・安全な教育環境の充実

施策の基本方向 ○自然災害や事故などの多様な危機から子どもを守り、いかなる事態においても子どもたちの学びを止めない危機管理体制を整備する。 ○すべての子どもが将来に希望をもって成長していけるように、学びと生活の支援が充実した居場所としての学校づくりに取り組む。 ○強い使命感と高い専門性を持つ教員の育成を図り、児童生徒が明るくいきいきと学ぶ魅力ある学校づくりを目指す。 ○子どもの豊かな成長を支える教職員の資質能力の向上を図る。

事業名	子ども未来づくり支援事業（教職員研修）
事業概要 実績	○教育委員会主催教職員研修会を全教職員対象に年1回（学校の夏季休業中）開催 【内容】・人権教育（参加者数 131 人） 「このまちが好きだから ～被差別の歴史を持つ地域に生まれて～」 崇仁発信実行委員会代表 藤尾 まさよ ・学力向上（参加者数 68 人） 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学習指導要領を踏まえた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」 京都教育大学教職キャリア高度化センター講師 大久保紀一郎 ・生徒指導（参加者数 38 人） 「生徒指導提要（改訂版）が示す これからの生徒指導の方向性」 関西外国語大学教授 新井 肇 ○各学校の主な教職員研修 各校の教育課題に応じた研修講師を招き、研修会を実施 【内容】・学習指導（主体的・対話的で深い学び、算数科教育、社会科教育等） ・特別支援教育（児童の特性理解と具体的な指導・支援） ・人権問題（同和問題） ・その他（強みを生かした学級経営等） ○先進校視察研修（小学校 2 件、中学校 2 件、向日市教務主任会、向日市教頭会） 【視察先】 ・小学校：筑波大学附属小学校 ・中学校：横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 ・教務主任会：東大阪市立布施小学校、刈谷市立朝日中学校、刈谷市立東刈谷小学校 ・教頭会：たつの市立龍野東中学校、たつの市立小宅小学校
担当課	学校教育課

事業名	登下校時安全対策
事業概要 実績	○通学路安全推進会議の開催（２回） 向日市子どもの移動経路／通学路等の交通安全プログラムに基づき、通学の安全対策について協議を行った。 構成団体：京都府乙訓土木事務所・京都府向日町警察署・向日市（まちづくり推進課・学校教育課・道路整備課・子育て支援課） ○交通指導員の配置 小学校の通学路における交差点や踏切等、登校時 34 箇所、下校時 15 箇所の危険箇所に交通指導員を配置し、通学路の安全確保を図った。 また、老朽化した交通安全啓発用反射電柱幕の交換や新たな設置を行い、通学路の交通安全について啓発を行った。 ○防犯ブザーの配布 小中学校の新 1 年生全員に防犯ブザーを配布した。（小学生 471 個、中学生 424 個）
担当課	学校教育課

事業名	学校施設の整備
事業概要 実績	○小中学校体育館空調整備に伴う電気設備改修工事の実施 児童生徒の安心安全な教育環境の確保のほか、災害時には避難所としても使用する小中学校の全体育館に空調設備を整備した。 ・体育館空調設置箇所：小学校全 6 校、中学校全 3 校 ○トイレ改修工事の実施 子どもたちが、快適で衛生的な環境で学校生活が送れるよう、和式から洋式へトイレの改修を実施した。 ・トイレ改修内容：床面乾式化、洋式大便器、自動洗浄機能付小便器、自動水洗式手洗い器、人感センサー式 LED 照明機器 ・トイレ改修箇所：勝山中学校南校舎・東校舎 西ノ岡中学校北校舎
担当課	文教課・公共建物整備課

施策の成果と課題	
【成果（学校教育課）】 ○教育委員会主催教職員研修会を実施するに当たり、令和 7 年度も、教職員のキャリアに応じて 3 つの講座を開催した（3 か年計画の 3 年目）。講座の参加対象を明確にすることにより、キャリアに応じた学びと実践に生かせる研修内容につながった。特に、人権教育については過去 2 年間で未受講の教職員は必須としたため、全員受講することができた。複数年を見通し研修の在り方を模索し、実践することができた。 ○校内研修会を実施した学校では、それぞれの分野での専門家を研修講師に招き、学習指導や評価、特別支援教育等、学校の状況に応じて様々な研修テーマを設定し、思考力・表現力を育てる授業づくりの手法や評価の考え方、障がいのある児童生徒への対応等、教職員の資質・能力の向上を図ることができた。	

- 通学路安全推進会議及び緊急合同点検において、学校から要望のあった通学路の危険箇所の情報を各関係機関と連携し、安全対策について点検、対策案を検討し、対策が必要な箇所について、各関係機関において、車止めの設置や電柱幕の設置など安全確保に向けた取組を進めた。
- 通行に際し注意が必要な箇所に交通指導員を配置し、児童が安心して通学できるよう通学路の安全対策を図った。また、「学童多し注意」「危険 歩行者に注意」の電柱幕を設置することにより児童生徒だけでなく、通行する車両に対しても交通安全に対する啓発を行った。
- 新1年生に防犯ブザーを配布し、不審者から身を守るための防犯・安全意識の啓発を行うとともに、いざという時に正しく使用できるよう指導を行った。また、学校だより等を通じ、防犯ブザーの定期的な電池交換と常時携行について周知を行った。

【成果（文教課・公共建物整備課）】

- 全小中学校の体育館に空調設備を整備することにより、熱中症を予防し、児童生徒の安心安全な教育環境の充実を図ったほか、災害時に避難所となる小中学校体育館の環境改善を行った。
- 校舎内等のトイレを洋式大便器や自動洗浄機能付小便器、乾式床等に改修することにより児童生徒が快適に学校生活を送れるよう、教育環境の改善を図った。

【課題（学校教育課）】

- 道路や周辺の状況変化等により通学路の危険箇所は常に変化するため、通学路安全推進会議の構成団体や学校・地域と連携して、定期的に要望や意見を取り入れつつ、交通指導員の配置時間や配置場所について、最適な見直しを行う必要がある。

【課題（文教課・公共建物整備課）】

- 児童生徒の安全確保及び学校施設の維持管理のために、老朽化が進行している校舎について、計画的に老朽化対策改修工事を実施しているものの、今後も進行する老朽化について計画的に維持管理を進める必要がある。
- 「向日市小中学校個別計画」に基づき、第2 向陽小学校の改築に取り組む必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

- 昨年度に続き、教育委員会が主体となって計画的に教職員のキャリアに応じた3カ年の研修を行っていることを高く評価する。今後、各校の研究指定の内容とも関連付けられた研修が可能かどうか検討いただきたい。
- 登下校時の安全対策については、交通安全や防犯が中心となっており、これらは重要であるが、近年関心が高まっている巨大地震が発生した際の行動についても触れておく必要があると考えるので検討いただきたい。
- 限られた予算の中で学校施設の整備が計画的に進められていること、特に体育館の空調整備は熱中症対策のみならず、避難所の環境改善にも寄与しており高く評価する。

施策番号	5
施策名	学校・家庭・地域の連携・協働による学校の教育力の向上

施策の基本方向 ○保護者や地域社会と連携・協働しながら、未来の創り手となる子どもの資質能力をはぐくむ「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。 ○次代の社会の担い手としての責任を自覚し、現代社会が抱える課題に関心をもって、主体的に社会参画できる資質と能力をはぐくむ。
--

事業名	学校評価
事業概要 実績	○自己評価 各学校は、評価計画に基づき教育活動に係る評価を実施することにより、各取組を改善した。 ・学校、学年、学級、校内分掌担当での評価を実施（年2～3回） ・児童生徒、保護者、学校運営協議会委員にアンケート調査を実施（年3～4回） ・評価と調査を基に教育活動を捉え直し、改善策を明確化 ・業務改善の視点を取り入れ実施（全小中学校） ○自己評価の公表 各学校は、各研究内容や授業改善の視点、家庭学習等、自己評価の結果を受けた教育活動の改善の方向性について学校だより等で周知した。
担当課	学校教育課

事業名	コミュニティ・スクールの展開
事業概要 実績	○小中学校における学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の進行管理と取組の充実を支援した。 ①各小中学校における学校運営協議会の状況把握とその運営を支援 ・各学校の運営協議会にオブザーバー参加し、状況を把握 ・各学校での取組や「熟議」の状況を踏まえ、それぞれの学校の取組について助言 ②学校運営協議会（年3回程度）の機会に授業参観や学校行事への参観・給食の試食など、協議会委員が学校の状況を把握する機会を拡充
担当課	学校教育課

事業名	情報モラル教育
事業概要 実績	○情報モラル教育の充実 各学校では「特別の教科 道徳」や学級活動等において、文科省や法務省の動画教材なども活用しながら、インターネット上の誹謗中傷やいじめ、個人情報の流出やプライバシーの侵害、有害情報やウイルス被害に巻き込まれるなどの問題の未然防止として、具体の被害を例示しながら対策や対応等について知識を習得させるなど、情報モラル教育を充実させた。

	<企業等との連携> ・勝山中 1・2年 7月（京都府警サイバー対策本部） ・西ノ岡中 全学年 6月（KDDI） ・寺戸中 全年生 5月（KDDI）
担当課	学校教育課

施策の成果と課題
【成果】 ○学校運営協議会での協議を通じて、児童会・生徒会の活動との連携や、地域学校協働活動、地域の方々との協働による取組など、それぞれの校区に応じた取組が行われ、協議会委員だけでなく地域の方々の学校に対する理解を進めることができた。 ○「熟議」の中で各校における授業改善や学習評価に関する取組や、児童会・生徒会での校則に関する取組など、教職員や児童生徒も巻き込んだ内容の協議等も行われた。 ○全児童生徒の発達段階に応じ、授業での指導はもとより教育活動全体を通じて、学習指導要領で学習の基盤となる資質・能力の一つとして位置付けられた情報活用能力（情報モラルを含む）の育成を図ることができた。 【課題】 ○学校運営協議会の取組が進むほど、協議会委員の方々との連携が増えることになってくるが、教職員の働き方改革との調整を図る必要がある。 ○「向日市立の小学校及び中学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則」に基づき、各学校の状況に応じた業務改善を一層推進させるとともに、京都府教育委員会「教職員の働き方改革実行計画」の評価指標を学校評価と連動させ、業務改善の点検・評価を実施する必要がある。 ○スマートフォンやSNSの利用が低年齢化する中、これらの利用を巡るトラブルが見られたため、発達段階や実態に応じて、利用の仕方について家庭と一層連携を図るとともに、安心・安全な利用について企業等と連携した指導を継続させる必要がある。

外部評価委員評価及び意見等
○学校評価については毎年度、学校運営協議会委員などの外部の視点も取り入れながら実施されており、PDCAサイクルが定着していることを評価する。今後は評価項目について、結果と改善をしっかりと結びつけて説明することができるかの視点から点検を行っていただきたい。 ○情報モラル教育については毎年度、企業等と連携し全市立中学校で実施されていることを評価する。しかし、課題にもあるようにスマートフォンやSNSの利用が低年齢化しており、小学校でもこれらの利用を巡るトラブルが見られる状況である。このため、家庭との連携も含め小学生への情報モラル教育の充実も進めていただきたい。

施策番号	6
施策名	生涯学習環境の充実

施策の基本方向 ○市民が生涯にわたり、多様な学習活動を行うことができるよう、自主的、自発的な学習活動を支援するとともに、学習機会の提供、学習の成果を活かす場や機会の充実に努める。

事業名	生涯学習情報紙の発行
事業概要 実績	○市などが開催する生涯学習関連事業の情報を市民に提供するため、生涯学習情報誌を発行した。 ・生涯学習情報誌 年3回 各回250部（市内公共施設等で配布）、市HPにPDFデータ掲載 ・子ども向け夏休み情報誌 年1回ミマモルメ配信、市内公共施設に配架
担当課	生涯学習課

事業名	中央公民館生涯学習講座
事業概要 実績	○子どもふれあい講座の開催 ①ふしぎ発見！理科教室 理科好きの子どもを育成するため、国家資格を有する科学の専門家（京都技術士会の会員）から理科の不思議について学ぶ「ふしぎ発見！理科教室」を4回開催した。 ・「音と楽器の科学」 牛乳パックとテグスを使って手作りギターを作り全員で演奏し、音と楽器の不思議を調べた。 開催日：令和7年7月5日（土）（参加者数36人） ・「タワシムシをつくろう！」 タワシとモーターを使ってタワシムシを作り、振動の強さがどう変わるか実験した。 開催日：令和7年7月12日（土）（参加者数29人） ・「小さな電子オルゴールを作ろう」 スイッチボタンを押すとメロディーが鳴る電子オルゴールを作り、みんなで合奏を楽しんだ。 開催日：令和7年8月2日（土）（参加者数30人） ・「天気がわかる？不思議な結晶」 薬品を混ぜてストームグラスを作り、氷水に漬けたりお湯に漬けたりして結晶の変化を予想・観察した。 開催日：令和7年8月23日（土）（参加者数36人） ②「ものづくり体験教室」 プロの和菓子職人の和菓子作りの技を見て、親子で和菓子づくりを体験してその楽しさや出来上がりの充実感を体験した。 開催日：令和7年9月20日（土）（参加者数61人）

③「将棋が強くなる！」教室

棒銀戦法の解説を受け、詰将棋に挑戦し、練習対局を行った。

開催日：令和8年1月31日（土）（参加者数13人）

○教養講座・健康講座の開催

①市民教養講座

・「シニアのためのスマホ教室」

中高年を対象にスマートフォンの機能を学び、実際に使い生活に役立つことを知り、その便利さを体験した。

開催日：令和7年6月23日（月）（参加者数35人）

講 師：ソフトバンク スマホアドバイザー

午前の部：情報弱者とならないためにスマホで情報入手を体験

午後の部：セキュリティと健康管理を中心に体験

・「紫式部と清少納言～平安文学のあじわい～」

平安時代の才女として知られる清少納言と紫式部。その作風から、清少納言は明るいものの多少軽く、紫式部は暗いものの深い含蓄があるとも評され、講座では、二人の作風をあぶりだした。

開催日：令和7年10月3日（金）（参加者数39人）

講 師：京都先端科学大学教授 山本 淳子

・「シニアのためのスマホ個別質問・相談会」

予め質問内容を3つ選んで参加者のスマホを使用して1組2名までで個別相談（1組30分まで）。

開催日：令和7年10月16日（木）（参加者数18人）

講 師：京都 SKY シニア大学 SKY スマホサークル会員

・「体験型ネット詐欺・偽サイト対策」

タブレット端末を使い、ネットトラブルを疑似体験しながら、詐欺などの手口や注意点や対策を学んだ。

開催日：令和7年12月5日（金）（参加者数14人）

講 師：京都府警ネット安心アドバイザー

②市民健康講座

・「カラダは食べた物からできている」

シニア向けに、健康寿命を延ばすためにはどうすればよいか、『栄養・運動・口腔ケア』を柱にお話していただき、食事のバランスチェックも行った。

開催日：令和7年9月29日（月）（参加者数30人）

講 師：(株)明治 食育担当

・「薬よもやま話」

薬の歴史、京都の薬屋町、歌舞伎や落語に登場する薬、風邪薬の使い分け、と幅広く薬に関してお話しいただいた。

開催日：令和7年11月22日（土）（参加者数32人）

講 師：京都府立医科大学研究教授 勝山 真人

③市民文化講座

	「童謡・唱歌の世界」 童謡・唱歌の歴史や違いを解説していただき、それぞれの歌の由来を紐解き全員で歌った。 開催日：令和7年10月31日（金）（参加者数40人） 講師：京都西山短期大学客員教授 島袋 章 ○市民文化展(第51回) 市民の創作による作品(絵画、写真、書、工芸等)を展示・発表する場を提供し、文化活動の活性化を図った。 開催日：令和7年11月7日（金）～9日（日）の3日間 出展者数：69人 出展数：78点 来場者数：290人 開催場所：永守重信市民会館ホール ○学習発表会「舞台の部」 公民館で活動しているクラブ・サークルが学習の成果（合唱、合奏、演舞）を発表した。 開催日：令和8年3月8日（日） 参加クラブ：登録5クラブ76人 覧者数：283人 開催場所：永守重信市民会館ホール
担当課	中央公民館

事業名	地区公民館生涯学習講座
事業概要 実績	身近な公民館で、一般教養、趣味などの講座に参加することにより教養を高め、また、地域の活性化が図れるように努めた。 ○寺戸公民館 ・趣味・教養講座「ハワイアンリボンクラフト教室」 ハワイの魅力たっぷりのチャームづくりを行った。 開催日：令和7年7月30（水）（参加者数15人） ・ものづくり体験教室「モザイクタイルを使ったコースター作り」 プロのタイル職人の技を見て学び、モザイクタイルで世界に一つだけのコースターを作ることで、自分で作る喜びや達成感を味わった。 開催日：令和7年8月7日（木）（参加者数35人） ・健康講座「フラダンス体験教室」 リズムに合わせてゆったりとした動きでフラダンスを楽しみ、幼児から高齢者まで参加し多世代交流の場になった。 開催日：令和7年9月21日（日）（参加者数19人） ・健康講座「太極拳体験教室」 ゆっくりとした動作や体重移動で足腰の筋力を鍛えるのに優れ、バランス感覚を養い転倒防止に繋がる太極拳を体験した。 開催日：令和7年10月17日（金）（参加者数19人）

	・趣味・教養講座「楽しく学ぶ干支剪画教室」 剪画の技法を学び、令和8年の干支である「午」の色紙を作成した。 開催日：令和7年11月14日（金）（参加者数19人） ・趣味・教養講座「寄せ植えを楽しもう」 季節の花木を用いてクリスマスから新春を飾る寄せ植えを学んだ。 開催日：令和7年12月19日（木）（参加者数31人） ○上植野公民館 ・健康講座「元気アップ体操」 体を動かすきっかけに、みんなで体操をした。 開催日：令和7年10月22日（水）（参加者数27人） ・趣味・教養講座「金箔手工芸」 令和8年の干支(午)の下絵が描いてある色紙に金と銀、色とりどりの箔で華やかにアレンジした。 開催日：令和7年12月19日（金）（参加者数9人） ○物集女公民館 ・健康講座「元気で歩き続けるために」 歳を重ねるとともに衰えていく脚力を維持し、元気で歩き続けるための方法を紹介していただいた。 開催日：令和7年12月2日（火）（参加者数36人） ○森本公民館 ・教養講座「交通安全教室」 自転車による通行規則が改正され、自転車のルール違反の罰金制度が強化されることから、これらを正しく理解し、安全な自転車走行について学んだ。 開催日：令和8年2月20日（金）（参加者数41人） ○鶏冠井公民館 ・健康講座「姿勢健康教室」 寒さで身体がこわばり、くずれがちな姿勢をやさしいタッチでケアするセルフケアを紹介していただいた。 開催日：令和8年2月28日（土）（参加者数17人） ○学習発表会「展示の部」 公民館で活動しているクラブ・サークルが学習の成果（絵手紙、生花、絵画、俳句、編み物、手芸等）を展示発表した。 開催日：令和8年2月～3月の毎週土日（各地区公民館が順次開催） 参加クラブ：登録27クラブ 255人 全出展数672点、来場者総数574人
担当課	中央公民館

事業名	図書館運営事業
事業概要 実績	○資料の収集と貸出 ・蔵書数：196,658 点 ・貸出資料数：256,263 点 貸出者数：81,477 人 ○レファレンス・サービス ・受付件数：99 件 ○予約サービスによる資料提供、他館との相互貸借、障がい者サービス ・予約処理件数：29,374 件 ・インターネット予約受付件数：23,910 件 ・相互協力：貸出 1,106 件、借用 1,459 件 ・障がい者サービス：自宅配本 20 回（124 点） ○施設利用の促進 ・自習スペースの設置（通年） 利用者 3,208 人 ○電子書籍サービス「どこでも図書館」事業 ・コンテンツ数（年度末現在） 1,479 点 ・年間ログイン人数 6,713 人 ・年間貸出回数 1,684 回 ○館外返却ポストの設置 ・イオンモール京都桂川 返却数 10,869（回収 108 回） ○読書の普及推進と読書環境の向上を図るための各種読書推進活動 ・おはなし会（7 月、12 月、3 月） 参加者 99 人 ・おはなしひろば（7 月、8 月、12 月、3 月を除く毎月） 参加者 230 人 ・大人の朗読会（6 月、9 月、12 月、3 月） 参加者 75 人 ・むこうビブリオバトル（7 月、11 月、3 月） 参加者 27 人 ・虹いろおはなし会（5 月、8 月、11 月、2 月） 参加者 30 人 ・ミニミニリサイクルコーナー（通年） 譲渡数 7,750 冊 ・小中学生読書感想文コンクール（9 月募集、12 月表彰式） 応募者 147 人 ○展示 ・「どきどきわくわくみつけた！」（4 月～5 月） さがしてビンゴ ・テーマ架（通年）館内約 10 か所で季節、催事にあわせて図書を展示 ・おおきくなあれ「本の木」（通年）応募数 218 点 ○他機関との協力 ・認知症図書の展示（向日市社会福祉協議会）
担当課	図書館

事業名	文化資料館運営事業
事業概要 実績	○古代の都“長岡京”をテーマとした常設展示の運営、企画展・テーマ展等の展示、日曜談話会、収蔵資料等のデータベース公開、市民ボランティア活動の支援等を通して、向日市の各時代の歴史及び文化について広く発信した。 ・開館日数：295 日 入館者数：14,396 人 ○企画展 ・「くらしのなかの戦争」 開催日：令和7年7月19日（土）～8月31日（日） 期間中入館者数：1,725 人 ○テーマ展 ・「向日市・乙訓の石碑 partⅡ」 開催日：令和7年4月12日（土）～7月6日（日） 期間中入館者数：2,434 人 ・「古代衣裳展」 開催日：令和7年6月6日（土）～10月21日（火） 期間中入館者数：5,607 人 ・「くらしの道具展」 開催日：令和8年1月17日（土）～2月23日（月・祝） 期間中入館者数：1,575 人 ・「ひな人形展」 開催日：令和8年2月21日（土）～3月29日（日） 期間中入館者数：1,246 人 ・「寿岳旧邸・向日庵一家族の仕事を生んだ家」 開催日：令和8年3月7日（土）～5月31日（日） 期間中入館者数：944 人（3月7日～3月31日まで） ○文化活動事業 ①歴史講座 ・「向日市・乙訓の漢文石碑を読もう」 開催日：令和7年5月18日（日）・5月25日（日）（参加人数80人） ・「街道からみた風景―物集女街道・西国街道―」 開催日：令和7年10月13日（月・祝）（参加人数57人） ②文化講演会 「物集女城跡から西岡の城館を考える―誰が城館を営んだのか―」 開催日：令和8年3月20日（金・祝）（参加人数89人） ③日曜談話会 ・「石碑にまつわる古文書を読もう」 開催日：令和7年6月15日（日）（参加者数27人） ・くらしのなかの戦争展「展示解説と戦争紙芝居上演」 開催日：令和7年8月17日（日）（参加者数29人）

	・「向日庵と和紙文化を知ろう」 開催日：令和7年6月22日（日）（参加者数16人） ・「みんなで学ぼう 古代のみやこ・長岡京」 開催日：令和7年7月6日（日）（参加者数15人） ④夏休み親子歴史教室「伝統文化を学ぼうー紙漉きと書道ー」 開催日：令和7年7月23日（水）・24日（木）・25日（金） （参加者数28人（延べ84人）） ⑤歴史ウォーク「史跡を訪ねて歩く物集女街道・西国街道」 開催日：令和7年10月26日（日）（参加者数21人） ⑥小さいピアノ♪コンサート 開催日：令和7年12月13日（土）（参加者数54人（うち演奏者10人）） ⑦令和7年度京都府南部地域ミュージアム連絡協議会合同事業 「昭和100年」総括イベント 開催日：令和8年3月8日（日）（参加者数68人）
担当課	文化資料館

事業名

天文館運営事業

事業概要
実績

○プラネタリウム関係

プラネタリウム新番組の導入、講演会や講座の開催など、天文への興味・関心を高める事業を実施した。

①総入館者数及び開館日数

開館 日数	投影 回数	観覧者数（予約及び一般投影）				ロビーのみ 入館者	入館者 総数
		大人	小中学生	幼児	観覧者計		
243 日	526 回	2,183 人	1,321 人	1,341 人	4,845 人	1,119 人	7,134 人

※入館者総数には、定例観望会、特別観望会、天文学等講座、教室、特別事業参加者人数を含む。

②団体予約学習投影

投影 日数	投影 回数	市内	市外	観覧料		観覧者数			
				有料	免除	大人	小中学生	幼児	合計
45 日	51 回	18 件	33 件	25 件	26 件	417 人	457 人	883 人	1,757 人

※一般投影時団体利用 17 団体 292 人（52+17=69 団体）

種別	団体数	人数
幼稚園	6	275 人
保育所	10	333 人
こども園	9	316 人
小学校	6	384 人
その他	20	449 人
合計	51	1,757 人

③一般投影

投影日数	投影回数	観覧者数			
		大人	小中学生	幼児	合計
195 日	475 回	1,766 人	864 人	458 人	3,088 人

○定例天体観望会参加者数：214 人（7 回開催、うち望遠鏡・双眼鏡観望のみ 6 回、プラネタリウム室 星空解説のみ 1 回）

○プラネタリウム観覧券引換券発行事業 222 人

○特別天体観望会参加者数：124 人

事業名	参加人数	開催月・回数	内容
昼の金星観望会	100 人	5 月・3 回	金星の満ち欠けを反射望鏡・屈折望遠鏡等で観望した。
夏の親子天体観望会	24 人	8 月・1 回	小学生とその家族を対象とした天体観望会を開催し、反射望遠鏡や屈折望遠鏡等を用いて天体観測を実施した。
朝堂院公園観望会	曇天のため中止	5 月	朝堂院公園において、仕事帰りの方や近隣住民を対象に望遠鏡や双眼鏡を使って月や惑星の観望を予定していた。

○天文教室・講座・講演参加者数：688 人（29 回開催）

事業名	参加人数	開催月・回数	内容
夏の天文教室① 「天文キーホルダーをつくろう」	18 人	7 月・2 回	プラスチック板を用いたキーホルダー制作を通じて、天体への親しみを深める機会を提供した。
夏の天文教室② 「望遠鏡をつくろう」	6 人	7 月・2 回	組立式の望遠鏡制作キットを用いた工作教室を開催し、完成した望遠鏡で天体観望を実施した。
夏の天文教室③ 「天文うちわをつくろう」	7 人	8 月・2 回	黒色のうちわに星座の装飾を施す体験を通じて、天体への親しみを深める機会を提供した。
夏の天文教室④ 「ラインストーンで星座絵をつくろう」	12 人	8 月・2 回	黒い画用紙にラインストーンを用いて星座を表現し額装する制作体験を通じて、天文への関心を深める機会を提供した。
秋の天文教室 テーマ「ケプラー、ガリレオ、ニュートンによる太陽系像確立への道のり」	10 人	9 月・1 回	近世天文学における力学的な太陽系モデル確立の過程に関する解説講座を開催した。
天文学講座 テーマ「グリニッジ子午線」	21 人	10 月・1 回	天文学、子午線と時刻の相互関係をテーマとした講座を開催した。
J A X A 特別講演会	56 人	1 月・1 回	地球に対する小惑星などの衝突リスクに備えるプラネタリーディフェン

	テーマ「天体の衝突に対応する：プラネタリーディフェンスの最新情報」			スの最新の動向を紹介する講演会を開催した。
	出前講座 6年生テーマ『月の満ち欠けの仕組み』 4年生テーマ『月と星』	558人	10月・8回 11月・3回 12月・3回 3月・4回 (計18回)	市立の小学校へ出向き、視覚的に理解できる教材(月見井)を活用し、「月の満ち欠けの仕組み」や「星」に関する講座を開催した。
	○特別企画事業参加者数：144人（7回開催）			
	事業名	参加人数	開催月・回数	内容
	七夕ファミリーコンサート 2025	56人	8月・2回	ギター、キーボード、カホン、ウィンドチャイムの生演奏と、当日の星空解説を実施した。
	熟睡プラ寝たリウム	32人	11月・1回	満天の星と音楽でリラクゼーションを促すプラネタリウム鑑賞会『熟睡プラ寝たリウム』を開催した。
	キッズプラネタリウム	48人	11月・2回	創作物語「こぎつねチロンのびっくり星」の投影と星空案内を開催した。
	古代衣裳を着て時代を感じてみよう	8人	11月・2回	文化資料館との連携としてキッズプラネタリウムの物語の舞台である古代への理解を深めるため、古代衣裳の着用体験を行った。
	○来館者総数：7,134人（内ロビーのみ入館者1,119人）			
	担当課	天文館		

施策の成果と課題
【成果（生涯学習課）】 ○生涯学習情報誌を発行することにより、市などが開催する生涯学習関連事業の情報を、多くの市民に提供することができた。より見やすく紙面を一新した。 【成果（中央公民館）】 ○中央公民館、地区公民館の生涯学習講座は、お馴染みの講座に加えて親子で参加する「ものづくり体験教室」を開催し、気軽に参加できる学習の場を多く方に提供できた。 ○中央公民館、地区公民館の講座について、様々な分野のテーマで開催することができ、開催回数、参加者とも増えた。 【成果（図書館）】 ○向日市どこでも図書館事業やイオンモール京都桂川に設置の返却ポストの活用により、図書館への来館が困難な方をはじめ、図書館を利用していなかった方々に対して、読書を通じてこれからの生涯学習の場として図書館を役立ててもらうことができた。

【成果（文化資料館）】

- 企画展「くらしの中の戦争」では、戦後 80 年にあたり、今まで寄贈されてきた資料のなかから、出征兵士ゆかりの品をはじめ、当時を物語る写真や生活用具など、戦時下の向日市（当時は向日町）における暮らしぶりがよくわかるものを中心に展示し、当時の生活を改めて振り返ることで戦時下の生活を実感してもらい、平和を考えるきっかけづくりとした。
- テーマ展「向日市・乙訓の石碑 partⅡ」では、ある出来事や人物の功績を永く記念する石碑や墓碑が向日市内や乙訓地域には多く建てられており、令和 6 年に開催し好評だったこのテーマ展に、新たに紹介する石碑を加え、写真や文字の拓本、関連する古文書や記録資料を展示した。また、関連事業として開催した歴史講座や日曜談話会も好評であった。
- 「くらしの道具展」は、ボランティアの会会員による農具の使い方の実演や解説を行い、乙訓地域 9 校の小学校 3 年生の団体見学に昔の生活について学習してもらう機会を提供した。特に、実演のリハーサルや解説マニュアルの改訂を行い、ボランティア会員が安定した解説ができるようにした。
- 子どもたちが地域の歴史と文化に関心をもつきっかけづくりとするため、向日庵と和紙文化を学ぶワークショップを開催し、地域の近代史や和紙文化を学ぶ機会を作ることができた。また、古代衣裳製作ボランティアとともに小学校へ出前講座を行い、文化資料館の学習教育への活用を推進した。
- 文化庁の「博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進事業」に府内 11 館と共同申請を行い、現行の収蔵品管理システムだけでなく、国のポータルサイトへ収蔵品資料の公開を行い、国内外の方へ当館の資料を見ていただく機会を広げることができた。また、それに伴い「博物館に相当する施設」として指定を受け、地域資源としての価値を上げることができた。

【成果（天文館）】

- 定例天体観望会において、新たに導入した電視望遠鏡を活用することで、銀河や星雲の鮮明な映像をタブレット端末等で共有可能とした。観望手法の多様化により参加者の満足度が高まり、事業の人気向上に寄与した。
- 令和 7 年度からの 4 事業について市外在住者（在学・在勤は無料）の有料化に伴い、一時的な参加者数の減少は見られたものの、事業は少しずつ定着し始めている。
- 「キッズプラネタリウム」では、文化資料館と連携し、物語の世界観を体験できる古代衣裳の着用体験を実施するなど、体験型学習の充実に努めた。
- 七夕ファミリーコンサートや J A X A 特別講演会などの、専門性の高い企画や芸術との融合企画は、多くの参加者を集めることができ、天文への関心を幅広く喚起した。
- プラネタリウム室を活用した学習機会の提供及び市内公立小学校全校を対象とした出前講座を実施した。児童の天文への関心を高めるとともに、学校教育の補完機能として着実に活用されている。

【課題（生涯学習課）】

- 生涯学習について、引き続き市民が自主的・自発的に学習活動に取り組めるよう、各課・関係機関が実施している講座の情報について、情報誌の効果的な提供方法を検討、工夫する必要がある。

【課題（中央公民館）】

- 学習発表会の舞台の部について、参加クラブが減少し観覧者数も増えていない状況から、今後、開催のあり方について検討する必要がある。
- 学習発表会の展示の部は、登録クラブ数が減少している背景もあり、展示の出展者及び出展数とも減少傾向にあることから、今後は機会を捉えて広く参加について呼びかける必要がある。

【課題（図書館）】

○少子高齢化社会の進展が、これからの図書館の利用実績に影響してくると考えられる一方、デジタル技術の普及にともない市民の読書離れ、活字離れを心配する声も高まっていることから、図書館が市民の読書を支援するという側面だけでなく、市民の「知りたい、学びたい」という求めに応えられる施設として、幅広く認められ利用されるような施策を講じなければならない。

【課題（文化資料館）】

- 年間入館者数は、令和3年度以降は毎年右肩上がりに増加しており、コロナ禍以前の水準に近づきつつある。幅広い層の多様な関心を考慮しながら事業内容や周知方法の工夫に努め、入館者数の一層の増加につなげる必要がある。
- 小中学生の地域の歴史に対する理解と愛着を深めるため、出前授業形式や来館形式のモデル学習プランの提案、提供可能な資料の紹介などを通じて、小中学校との連携・交流を深め、文化資料館の学校教育への活用を促進していく必要がある。
- 令和3年度に運用を開始したクラウド型収蔵品管理システムでは、民俗資料を中心として3,500件以上のデータを公開している。今後もデータの新規登録、解説文の追加・修正など、一層の充実を図っていく必要がある。

【課題（天文館）】

- 定例天体観望会で得られた天体データや映像資料のアーカイブ化を進め、市内小・中学校や市民が場所を問わず利用できる仕組みを構築するため、関係機関との協議・連携を強化する。
- 現行の小学校向け出前講座に加え、中学校・高等学校への対象拡大を検討し、各年代の学習ニーズに応じた教育的価値の高いプログラム開発に努める。
- 市内外を問わず天文館の魅力を周知するため、効果的な広報活動を行い、さらなる利用促進を図る。
- 市民の生涯学習ニーズの変化を捉え、より魅力的なプログラムの充実に努め、市民にとって親しみやすく学びのある施設づくりを推進する。

外部評価委員評価及び意見等

- 生涯学習情報紙については、紙面の構成を変更されたことにより、施設ごとの事業が掲載され、これまで以上に見やすくなったことを評価する。情報紙は、定期的に継続して発行することが大切である。このため、幅広い年齢層に伝わるよう工夫・改善に引き続き取り組んでいただきたい。
- 中央公民館学習講座については、毎年、子どもや高齢者といった年齢層を絞った講座や幅広い年齢層を対象とした講座など多岐にわたっており、市民ニーズにあった工夫をされていることを評価する。中でも「子どもふれあい講座」や「体験型ネット詐欺・偽サイト対策」講座は内容が優れており、継続的に開催されることを期待する。地区公民館生涯学習講座については、定番となっている講座から新たな講座まで各公民館が内容を重複することなく幅広いニーズに対応できるよう工夫して実施されていることを評価する。
- 図書館については、近年に始められた自習スペースやイオンモール京都桂川の返却ポスト、電子書籍サービスなどの利用が着実に増えていることを評価する。一方、レファレンス・サービスは図書館の事業の中でも非常に重要なものである。しかし、サービスの内容を知らない利用者や市民も多いため、周知を図ることで図書館利用の促進につながることが期待できる。

○文化資料館については、興味・関心を引く質の高い展示や講座が計画的に実施されていることを評価する。中でも小学校への出前講座や団体見学など学校教育と連携することで資料館の価値を一層高める取組が見られることから継続されることを期待する。また、文化庁の「博物館に相当する施設」に指定されたことを大きく評価する。

○天文館については、プラネタリウムだけに留まらず、様々な教室・講座や特別企画が開催されている。この広がりのある事業展開を評価する。中でも小学校への出前講座や文化資料館事業とタイアップした企画の実施など、横との連携により事業が展開されていることを高く評価する。天文は理科の分野だけでなく歴史や数学などの広範囲の分野にも触れることができるため、出前講座等の中学校等への対象拡大に期待する。

施策番号	7
施策名	家庭・地域社会の教育力の向上

施策の基本方向 ○家庭教育はすべての教育の出発点であり、その担い手である保護者自身が学ぶための学習機会の充実に努める。 ○学校・家庭・地域社会が連携して、様々な活動を通して地域の絆を強め、地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを推進する。

事業名	家庭教育力の向上
事業概要 実績	○子ども家庭課「前向き子育て講座」への協力 講座実施の周知、受講者募集の協力 ○「早寝早起き朝ごはん」ポケットガイドの配布 市内公立小学校の新1年生の保護者へ配布
担当課	生涯学習課

事業名	P T Aとの連携・支援
事業概要 実績	○向日市P T A連絡協議会の支援・助言 理事会年 11 回、軽スポーツ大会等の活動支援 ○社会教育関係団体への補助金交付 交付団体：市立小中学校P T A ○向日市P T A連絡協議会との共催による人権研修の実施 ・第1回「現代社会における部落差別の変容とインターネット」 開催日：令和7年8月29日（金）（参加者数33人） 場 所：永守重信市民会館第1会議室 ・第2回「インターネットと人権～加害者にも被害者にもならないために～」 開催日：令和7年12月4日（木）（参加者数32人） 場 所：永守重信市民会館第1会議室
担当課	生涯学習課

事業名	地域学校協働活動推進事業
事業概要 実績	○保護者をはじめ自治会や農家組合の方など幅広い地域住民の参画を得て、学校に対する多様な協力活動を実施し、地域全体で児童生徒の学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域の方々が双方向で連携・協働し、子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを推進した。 ・実施校：向陽小（H26～）、2向小（H24～）、3向小（H21～） 4向小（H29～）、5向小（H27～）、6向小（H28～） 勝山中（H27～）、西ノ岡中（H25～）、寺戸中（R元～）

	・本部委員：71 人 ・内 容：学習支援（向陽小、2 向小、3 向小、4 向小、5 向小、6 向小、勝山中、西ノ岡中、寺戸中） 環境整備（向陽小、4 向小、5 向小、6 向小、寺戸中）
担当課	生涯学習課

事業名	放課後児童サポート事業
事業概要 実 績	○子どもの安心・安全な居場所づくりを目的に、5 時間目終了後から高学年の授業終了までの間、低学年を対象に自由遊び等を行った。 ・実施場所：向陽小、2 向小、3 向小、5 向小、6 向小 ・実施回数：68 回 ・内 容：グラウンド・体育館での自由遊びなど
担当課	生涯学習課

事業名	青少年健全育成団体との連携・支援
事業概要 実 績	○青少年健全育成団体との連携 ・安全見守りパトロール実施 ・あいさつ運動を小中学校登校時に実施（2 団体） ・市民ふれあいコンサートを開催 参加校・参加団体：市内 3 中学校及び京都府立向陽高等学校、京都西山高等学校の吹奏楽部、京都管楽合奏団 ARTY BEARS ○青少年健全育成団体への補助金交付 交付団体数：3 団体
担当課	生涯学習課

施策の成果と課題	
【成果】 ○地域学校協働活動推進事業において、本部委員の増員や活動内容の充実が図られた。また、寺戸中学校での活動が再開したことで、市内の全小中学校において地域と学校の連携・協働を図ることができた。 ○P T A・青少年健全育成関係団体に対し、活動運営や事業に要する経費の一部を補助することで、地域における社会教育の振興と発展を図ることができた。 ○「市民ふれあいコンサート」において、新たに向陽高等学校が参加したほか、コロナ禍以降の入場制限を撤廃し、広く市民へ周知を図った。その結果、約 2 9 0 人もの市民にご来場いただき、生徒の日頃の練習成果を鑑賞する場を提供することができた。 【課題】 ○地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、はぐくむ環境づくりを継続するためには、より幅広い地域住民等の参画が不可欠である。今後も地域学校協働活動推進事業において、持続可能な活動に向けた多様な人材確保に努め、あわせて、P T Aや青少年健全育成関係団体の活動をひきつづき支援することが必要である。	

外部評価委員評価及び意見等

- 家庭の教育力の向上は非常に難しいテーマである。しかし、「早寝早起き朝ごはん」ポケットガイドなどのツールを配布することで気づきや活用のきっかけとなるはずである。学校教育とも連携しながらアプローチを継続していただきたい。
- 市内全小中学校で地域学校協働活動推進事業が展開されていることを評価する。児童生徒にとって、普段の学校の教師とは異なる地域住民との交流は得がたい経験であり成長のきっかけとなる。引き続き各学校や地域の利点を生かした活動が展開されるよう支援していただきたい。
- 「市民ふれあいコンサート」については、市内すべての中学校・高等学校が参加し、入場制限も撤廃され多くの市民に日頃の成果を発表する機会となったことを評価する。成果を発表する場は貴重なものとなる。したがって、継続的にこのような場を開催できるよう支援していただきたい。

施策番号	8
施策名	安心して産み育てる体制づくり

施策の基本方向 ○安心して子どもを産み、健やかに育てることができる環境づくりを推進する。
--

事業名	放課後児童健全育成事業（留守家庭児童会運営事業）
事業概要 実績	○放課後などに保護者等が仕事などで不在の小学生に、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図った。 ①各留守家庭児童会入会児童数：870 人（令和 7 年 5 月 1 日現在） ・第 1 留守家庭児童会：170 人（3 クラブ） ・第 2 留守家庭児童会：145 人（3 クラブ） ・第 3 留守家庭児童会：83 人（2 クラブ） ・第 4 留守家庭児童会：241 人（5 クラブ） ・第 5 留守家庭児童会：147 人（3 クラブ） ・第 6 留守家庭児童会：84 人（2 クラブ） ②各留守家庭児童会夏季入会児童数：37 人（令和 7 年 7 月 22 日～8 月 25 日） ・第 1 留守家庭児童会：5 人 ・第 2 留守家庭児童会：6 人 ・第 3 留守家庭児童会：5 人 ・第 4 留守家庭児童会：6 人 ・第 5 留守家庭児童会：9 人 ・第 6 留守家庭児童会：6 人 ③指導員研修会の実施（計 7 回） ・「服務規程と福利厚生」（4 月） ・「虐待対応研修」（5 月） ・「防災セミナー」（6 月） ・「応急処置」（9 月） ・「子どもとの関わり方について」（11 月） ・「消防避難訓練」（12 月） ・「発達障害児への支援」（2 月） ④留守家庭児童会巡回支援アドバイザーの配置 放課後児童健全育成事業における育成支援の内容と質の向上（指導員のレベルアップ）を図るため、アドバイザーを配置し、支援を行った。 ⑤施設環境整備 第 1 留守家庭児童会施設の増築、建具、網戸、トイレなどの施設修繕
担当課	生涯学習課

事業名	幼児教育の振興
事業概要 実績	○向日市私立幼稚園設備費補助金 園児に安全で快適な教育環境を提供し、幼稚園教育の振興を図るため、市内私立幼稚園の設置者に対し、私立幼稚園の設備等の充実に係る経費を補助した。 交付：市内3園 630,000 円（上限：1 園当たり 210,000 円） ○向日市私立幼稚園教材教具購入補助金 在籍する園児の保護者負担の軽減を促進するとともに、幼稚園教育の振興を図るため、市内私立幼稚園の設置者に対し、私立幼稚園の教材教具の購入に係る経費を補助した。 交付：①備品の購入に要する費用 市内3園 264,700 円（上限：1 園当たり 90,000 円） ②消耗品及び図書の購入費用 市内3園 352,800 円（392 人：市内在住の園児一人当たり 900 円） ○乙訓私立幼稚園協会教育研究補助金 乙訓私立幼稚園協会が実施した教育研究事業に係る経費を補助することにより、市内に設置された私立幼稚園における幼稚園教育の振興を図ることができた。 交付：195,000 円（上限：1 園当たり 65,000 円） ○向日市私立幼稚園特別支援教育振興補助金 障がいのある幼児の円滑な受入を推進し、教育の充実に図り、適切な保育環境を提供するために、市内私立幼稚園の設置者に対し、障がいのある幼児の特別な教育的支援の実施に要する人件費を補助した。 交付：市内3園 4,802,000 円（49 人：補助単価 98,000 円）
担当課	文教課

施策の成果と課題
【成果（生涯学習課）】 ○留守家庭児童会では、今年度から対象を1～4年生としたが、入会要件を満たす児童を全て受け入れたことで、保護者のニーズに応えることができた。また、第1留守家庭児童会の増築や施設ごとに必要な修繕を行うことにより、良好な保育環境を保つことができた。 【成果（文教課）】 ○私立幼稚園の設備、備品の整備を促進するとともに教職員の教育研究事業等を支援することにより、幼稚園教育の振興を図ることができた。また、障がいのある幼児を受け入れる私立幼稚園を支援することにより、障がいのある幼児の就園促進及び教育の充実に図り、適切な保育環境の提供を推進することができた。 【課題（生涯学習課）】 ○児童が安心・安全に過ごすことができ、保護者も安心して就労することができるよう、各留守家庭児童会において引き続き指導員の確保及び環境整備に努める必要がある。

【課題（文教課）】

○幼児教育の重要性を踏まえ、引き続き私立幼稚園の設置者に対して補助金の支給を行い、幼稚園教育の振興を図る必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○留守家庭児童会については、第1留守家庭児童会施設を増築し、需要への対応が図られていることを評価する。また、指導員への研修についても「子どもとの関わり方について」といった技術的なことだけでなく「防災セミナー」や「応急処置」といった経験等を問わず誰もが共通して大切となる内容も押さえており評価できる。今後も質を落とすことなく研修を実施していただきたい。

○市内私立幼稚園に行われている設備費補助金や教材教具補助金については、教育現場において喜ばれる内容であり使い勝手が良い反面、補助金をもらうことが目的化しないよう、申請時の確認を怠らないようにしていただきたい。特別支援教育振興補助金については、障がいなど支援を必要とする幼児の受入を推進し、適切な教育へとつなげるものとして効果のある補助金のため継続していただきたい。

施策番号	9
施策名	スポーツ活動の推進

施策の基本方向 ○スポーツを「する」「みる」「ささえる」を通じたスポーツ人口の拡大を目指し、市民が健康で心豊かに暮らせるよう、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実に努める。
--

事業名	各種スポーツイベントの開催
事業概要	○市民総合体育大会（参加者 681 人）
実績	○スポーツ交流フェア（参加者 1,553 人）
担当課	生涯学習課

事業名	市民体育館の管理運営
事業概要	平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、令和 3 年度から 5 年間の指定管理者に（公財）向日市スポーツ文化協会を指定している。
実績	○体育室稼働率：90.6% ※トレーニング室は健康増進センターに移転のため、令和 5 年 1 月 15 日閉室 健康増進センター内トレーニング室利用者：41,105 人 ○卓球室利用者：6,269 人
担当課	生涯学習課

事業名	スポーツ指導者育成
事業概要	○スポーツ推進委員の育成
実績	研修会の開催（毎月 1 回）、スポーツイベントへの派遣など
担当課	生涯学習課

事業名	学校等体育施設開放事業
事業概要	○社会体育の振興を図るため、学校等体育施設の開放を行った。
実績	<使用回数> ・小学校：体育館 2,190 回、グラウンド 1,818 回 ・中学校：体育館・武道場 845 回 ・向日町競輪場スポーツ施設：17 回（工事のため、令和 7 年 9 月から使用不可）
担当課	生涯学習課

施策の成果と課題

【成果】

- （公財）向日市スポーツ文化協会の各種スポーツ教室などを実施し、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実を図った。
- スポーツ推進委員では、「キンボール」や「スリータッチ」などの研究に取り組み、乙訓スポーツ推進委員研究協議会や市民向けの体験会で競技の普及を図るとともに、ハイキングやラジオ体操を行う事業を実施するなど、市民の健康推進とスポーツに親しめる環境づくりに努めた。

【課題】

- 自らの意欲や健康状態に応じて、誰もが気軽にスポーツに取り組めるよう、引き続き（公財）向日市スポーツ文化協会や関係機関・団体と連携して事業に取り組み、幅広い年齢層の方々にスポーツに接することができる機会を提供し、スポーツの実施率の向上などを図る必要がある。
- 令和3年3月策定の「向日市スポーツ推進計画」に基づき、市民が健康で心豊かに暮らせるよう、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実を図っていく必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

- 「スポーツ交流フェア」では「サッカークリニック」や「バスケットボールクリニック」「卓球クリニック」も開催され、プロスポーツの選手やコーチから直接に指導を受ける機会が設けられたことを評価する。全国的にスポーツを愛好する人、趣味としてスポーツを続けている人は増えているので、そこに着目し、興味・関心を引く取組を引き続き行っていただきたい。
- 「施策6 生涯学習環境の充実」の中でも、各公民館では健康講座が開催されており、健康のために体操や身体を動かしている市民は多いことがうかがえる。このため、スポーツと健康づくりとの連携をより緊密にすることでスポーツにつながるきっかけとなることが期待できる。そういった点も検討していただきたい。

施策番号	10
施策名	互いの人権を認め合うまちづくり

施策の基本方向 ○市民一人一人がお互いの人権を尊重し合い共に生きることができるよう、人権について、学び、考え、実践していくことにより、人権という普遍的文化の構築を目指して人権教育・啓発事業に取り組む。
--

事業名	人権研修会
事業概要 実績	市民がそれぞれの状況に応じて、人権尊重の理念に対する理解を深め、これを体得することができるよう、人権について学ぶ機会として開催した。 ○第1回「現代社会における部落差別の変容とインターネット」 開催日：令和7年8月29日（金）（参加者数33人） 講師：大阪公立大学都市経営研究科教授 阿久澤 麻理子 場所：永守重信市民会館第1会議室 ○第2回「インターネットと人権～加害者にも被害者にもならないために～」 開催日：令和7年12月4日（木）（参加者数32人） 講師：京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授 浅田 太郎 場所：永守重信市民会館第1会議室
担当課	生涯学習課

施策の成果と課題
【成果】 ○第1回研修では、部落差別が土地差別など社会の仕組みに組み込まれ、潜在化している現状について、統計や事例を交えた講演となった。受講者からは「被差別部落を知らないことが、差別をなくすことにはならないと知った」「情報を見極める判断力と、正しい知識を得ることの重要性を学んだ」といった声が寄せられ、差別に対する本質的な理解と気づきを促す成果が見られた。 ○第2回研修では、身近なツール（スマートフォンやパソコン）に潜む加害・被害のリスクについて講演をいただいた。「オンラインでも相手の気持ちを考えるという本質は変わらない」など、SNSの正しい活用と人権尊重の重要性について、受講者の深い理解を得ることができた。 【課題】 ○アンケート結果では、「子どもがインターネットの情報を信じ切ってしまうため、家庭での対話や見極めが難しい」「子どもたち自身がSNS利用と人権について考える機会が必要である」といった意見が多数寄せられた。 ○今後は、学校・家庭・地域と連携し、若年層や子どもたちを含めた幅広い世代に対する継続的な啓発の場を設ける必要がある。 ○PTAや市民の方の参加者は増加傾向にあるものの、さらに多くの方に受講していただけるよう、研修テーマの工夫や効果的な周知方法の検討が必要である。

外部評価委員評価及び意見等

○人権研修会の事後アンケートを継続していることを評価する。より多くの方が参加できるよう開催時期や時間等についても検証していただきたい。

○今回の研修がインターネットに係る内容であったのは、インターネットが生活の隅々まで一般化し、関心が高くなっていることの現れであると考える。一方、SNSや生成AIなどの技術の進歩が非常に早くなっているため、こうした時流を捉えた研修会も引き続き実施していただきたい。その際、市民の興味・関心に沿ったテーマ設定やタイトル表現を工夫することで参加者を増やすことが期待できる。

施策番号	11
施策名	歴史・文化資源の整備と活用

施策の基本方向 ○文化財の保護及び積極的な整備や活用に努め、歴史・文化資源を未来に継承する。
--

事業名	有形文化財の保護と活用事業
事業概要 実績	○建造物の防災設備維持管理補助 ・ 目 的：国及び京都府指定等文化財（建造物）の修理や防災設備維持管理、災害復旧等に要する経費を補助する。 ・ 補助等：3事業者 3事業（104,000円） ○建造物の防火・防犯 ・ 目 的：国及び京都府指定等文化財（建造物）の適切な管理を図るため、文化財火災予防運動の期間中に、広報活動、消防訓練、消防設備の立入検査等を実施する。 ・ 訓 練：令和8年1月26日（月）南真経寺で実施した。 ・ 検 査：令和8年1月23日（金）指定文化財及び登録文化財の建造物に立ち入り、消防設備の点検及び防火意識の高揚を図った。 ○建造物の保護 ・ 向日庵（旧寿岳家住宅）買上事業 国登録有形文化財向日庵（旧寿岳家住宅）の保存・整備・活用をはじめ、文化財の保護、地域振興、観光振興を目的として、用地取得を実施した。 買 上 地：向日市上植野町浄徳10番1（342.13㎡） 総事業費：84,081,415円
担当課	文教課

事業名	史跡の保護と活用事業
事業概要 実績	○史跡公園整備事業 長岡宮跡大極殿東面回廊地区の保全整備を図るため、令和5年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を反映した「史跡公園」として整備工事を行った。 ○史跡の保護 ・ 史跡物集女城跡買上事業 京都府内の中世城館として、初めて国の史跡として指定を受けた物集女城を本市の「北の玄関口としての歴史・文化遺産」として末永く保全し活用を図るため、用地取得を実施した。 買 上 地：向日市物集女町中条地内 史跡指定面積等：17筆 7,568.45㎡ 買上実績面積等：10筆 5,758.45㎡ 総 事 業 費：254,731,447円

	○史跡等の文化財保存団体への補助 ・ 目 的：市内に所在する史跡等の保存団体が実施する文化活動に要する経費を補助する。 ・ 補助等：3 団体（78,000 円） ○史跡指定地等文化財用地の維持管理 ・ 目 的：史跡指定地等の文化財用地の清掃、除草、樹木の剪定、生垣刈込等を実施し、史跡環境の保全に努める。 ・ 内 容：文化財用地 11 か所において、延べ 129 回の維持管理作業を実施した。 ○史跡乙訓古墳群の維持管理 ・ 目 的：史跡指定地等文化財用地の中でも令和元年度に取得した史跡乙訓古墳群の五塚原古墳（37,242.22 m²）及び寺戸大塚古墳（4,380.14 m²）は、保全状況が十分でないため、境界付近の危険木の枝払い作業を実施し、史跡環境の保全に努める。 ・ 内 容：五塚原古墳では、前面道路等隣接地に伸びた樹木の伐採を延べ 4 回実施した。寺戸大塚古墳では、タケノコの除去や竹の間伐を延べ 2 回実施した。
担当課	文教課

事業名	埋蔵文化財の保護と活用事業
事業概要 実 績	○開発等に係る埋蔵文化財の審査 ・ 目 的：市内の周知の埋蔵文化財包蔵地内で実施される開発等を審査し、必要な場合は保存措置を行う。 ・ 件 数：開発、まちづくり条例に係る文化財審査 32 件 建築確認申請に係る文化財審査 244 件 埋蔵文化財発掘届出書受理 203 件 埋蔵文化財発掘通知書受理 10 件 ○埋蔵文化財発掘調査等事業 ・ 目 的：長岡京跡ほか本市の特色ある埋蔵文化財を保護するため各種の調査を実施する。 ・ 発掘調査：19 件（5,736.41 m²） ・ 立会調査：140 件（埋蔵文化財詳細分布調査） ・ 出土遺物：81 箱 ○埋蔵文化財出土遺物保存処理事業 ・ 目 的：埋蔵文化財発掘調査出土品に、科学的処理を施し、腐食等の進行を最小限に留める。 ・ 種 別 等：長岡京跡ほか埋蔵文化財発掘調査出土遺物 京都府指定文化財（考古資料） 物集女車塚古墳出土 鞍金具 1 点

	・ 処理方法：鉄製品 アルカリ性水溶液含浸 銅製及び青銅製 ベンゾトリアゾール溶液含浸 ○埋蔵文化財出土遺物整理分類事業 ・ 目 的：数多くある埋蔵文化財出土遺物を適切に管理するため、国や府の基準に基づき分類整理する。 ・ 内 容：埋蔵文化財発掘調査等の出土遺物を活用度に応じA～Dの4種類に分類し、データベースを作成した。 ・ 成 果：令和7年度コンテナ 57 箱（559 点） 累計コンテナ 12,428 箱 累計遺物個体数 77,654 点 ※点数は活用頻度の高いA、B分類のみ
担当課	文教課

事業名	文化財の広報普及事業
事業概要 実 績	○史跡長岡宮跡朝堂院公園公開・説明事業（平成22年6月22日 開所） ・ 目 的：史跡整備を実施した長岡宮跡朝堂院西第四堂地区に設置した案内所に案内員を配置し、史跡来訪者に対し史跡及び市内の歴史・文化遺産の案内解説を行い、史跡の一層の活用と地域振興・観光振興に寄与する。 ・ 開園日数：353 日 ・ 来訪者数：5,937 人（累計来訪者数 104,486 人） ・ 1 日平均：16.82 人 ・ そ の 他：市内小学校の学年、クラス単位の地域学習や教職員研修の場として朝堂院公園を活用した。 ○復元体感アプリ「AR長岡宮」の活用と拡充（平成26年3月末に配信開始） ・ 目 的：史跡長岡宮跡の理解を促進するため、AR・VR技術を用いて作成した無料アプリケーションを通じ、史跡の一層の活用と地域振興・観光振興に寄与する。 ・ 利 用 者 数：5,454 人（ダウンロード 5,377 人、貸出タブレット 77 人） ・ 累計利用者：29,777 人（ダウンロード 24,404 人、貸出タブレット 5,373 人） ○復元体感アプリ「墳タビ！物集女車塚古墳」の活用（平成29年3月末に配信開始） ・ 目 的：史跡乙訓古墳群（物集女車塚古墳）の理解を促進するため、AR・VR技術を用いて作成した無料アプリケーションを通じ、史跡の一層の活用と地域振興・観光振興に寄与する。 ・ 利用者数：5,146 人（令和7年度ダウンロード数） 15,575 人（累計ダウンロード数） ○古代衣装の貸出（長岡京期の衣装 男女各4着） ・ 場 所：朝堂院公園案内所

	・貸出数：9人 ○史跡乙訓古墳群物集女車塚古墳石室一般公開 ・目的：良好な形で現存し、保全整備工事が終了した物集女車塚古墳の横穴式石室を広く公開し、史跡乙訓古墳群への理解を得る。 ・期間：令和7年5月24日（土）～6月1日（日） ・見学者：603人 ・その他：公益財団法人向日市埋蔵文化財センターでは、石室公開に併せ、小学校でふろさと学習を実施した。 ○市民考古学講座開催事業 長岡宮内裏～内裏正殿の再発掘 ・目的：向日市の特色ある歴史・文化遺産を題材とし講座を開催する。 ・開催名：祭殿発掘30年～中海道遺跡の大型建物の再評価～ ・開催数：講座3回と講演会1回 ・参加者：講座 計95人、講演会40人 ○埋蔵文化財調査成果展の開催 長岡宮内裏～内裏正殿の再発掘の最新調査成果展 ・目的：前年度に実施した発掘調査成果について展示し広く市民に広報する。 ・期間：令和7年9月6日（土）～10月13日（月）（来館者1,688人） ・講演会：開催日 令和7年10月11日（土）（参加者91人） 演題 「日本古代都城における大極殿・朝堂院・内裏-歴代王権の理想像を考える-」 ○埋蔵文化財等保管資料の活用 ・出土遺物等資料の貸出 3機関等に73点 ・写真資料提供、掲載等承諾 11機関等に91点 ・保管資料の調査・見学対応 3機関等に45点 ○史跡長岡宮跡朝堂院西第四堂復元・体感具「ふわふわ！朝堂 in」の活用 ・目的：史跡長岡宮跡の適切な保全と広報・普及啓発を図るため、朝堂院西第四堂を模した塩化ビニル製の体感具を活用しイベントを開催した。 ・活用日：令和7年7月22日（火） ・利用者：59人
担当課	文教課

施策の成果と課題

【成果】

○古墳や都城跡が存在する本市特有の歴史・文化遺産を活用して、展示や講座・講演会、見学会などを実施したほか、令和6年度に国史跡指定を受けた物集女城跡及び国登録有形文化財向日庵(旧寿岳家住宅)の用地取得を行った。こうした事業を実施した結果、市民の文化財保護に対する理解の促進、地域愛の醸成につながり、文化財を核とした地域振興、観光振興に寄与することができた。

【課題】

- 本市に所在する特色ある歴史・文化遺産は史跡乙訓古墳群をはじめ、史跡長岡宮跡や重要文化財を有する向日神社、南真経寺が主体となる。地域の歴史を物語る財産、後世に残したい宝として市民の共通認識を育めるような保護施策や、価値を高め広く認知されるような多様な活用施策、また、こうした施策について積極的な情報発信を引き続き行っていく必要がある。
- これまで史跡長岡宮跡や史跡乙訓古墳群など市域の中南部や丘陵部の文化財活用が中心であったが、市域の北部に所在する「物集女城跡」を含めた、市域全体の歴史文化遺産の活用に取り組む必要がある。
- まちづくりに文化財を活かし、より一層地域が一体となって歴史・文化資源の継承に取り組んでいくため、文化財の計画的な保存と活用の促進を図っていく必要がある。そのためには、京都府が策定した「京都府文化財保存活用大綱」を参考に、地域住民の意見を反映した「向日市文化財保存活用地域計画」や「史跡乙訓古墳群保存活用計画」を策定することが有効である。

外部評価委員評価及び意見等

- 史跡物集女城跡及び国登録有形文化財向日庵(旧寿岳家住宅)の買い上げ事業が着実に進捗し、貴重な歴史資源の保存が進んでいる。また、取得された文化財用地についても清掃や樹木の剪定、伐採等の維持管理に努められ良好な状態を維持されている。これらのことを高く評価する。
- 今後も購入した史跡・建造物の価値を多くの市民に周知していただきたい。特に、向日市は歴史資源が豊富にあるため、新聞やテレビなどのマスメディアに取り上げられることが関心の低い市民へのアプローチとしては必要となる。一方で「物集女」や「鶏冠井」などの難読地名も多いことから、そういったことも逆手にとったアプローチも検討していただきたい。また、課題にあがっている保存活用計画についても、策定されることを期待する。

IV 外部評価委員の総評

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に基づき、向日市教育委員会の権限に属する事務について、令和 7 年度事業分を点検したところ、全体として前年度同様に限られた予算の中で、地域の様々な資源を活用し、質の高い教育委員会の事業が実施されていると評価する。

学校教育の面では、教育委員会が主体的に研究指定や教職員への研修等を通じて各学校を支援する一方で、学校の主体性を尊重し、地域の協力を得ながら体験活動やふるさと学習など、子ども達の学びを高める取組が進められている。また、施設整備においては、市内小中学校の体育館に空調が整備され、夏季における子ども達の熱中症対策に留まらず、災害時における避難所としての環境整備にも寄与し、非常に効果的な施設整備が行われていると言える。

生涯学習の面では、各施設や部署が多く知恵やアイデアを出している。それは、市民の興味・関心を引く講座や企画等を数多く実施されていることがその象徴である。その中で特筆すべきは、それらが生涯学習分野に留まらず学校教育の分野にも活用され、子ども達の学びの場にもなっている点である。加えて、ある生涯学習施設が、他の施設で行っている事業を活用してより価値を高める事業を実施するなど施設間の連携・活用も見られる。これらによって、各分野や施設同士が相互に作用し合い相乗効果を高める取組が進化しつつあることがうかがえた。

今後も、どのようにすれば市民にとってよりよい教育環境を提供できるのか。また、向日市に暮らす子ども達や市民が「ふるさと」として愛着を持ってもらえるのかにも視点を置き、向日市固有の資源を生かしながら「ふるさと向日市創生計画」に基づき、教育委員会全体で魅力ある向日市の教育の推進に尽力されたい。